

# 特集5

## 新「海の恵みが人を繋ぐ」

企業組合こもねっと事務局長 清家 裕二



### こもねっとの理念と3つの事業

本号のテーマ「食でつながる人とまち」は、恥ずかしげもなく言わせてもらえば、私たち企業組合こもねっとの企業理念「(海の恵み+環境共生)×人のつながり」元気な地域と共に生きる企業」そのものです。

この理念の意味するところは、海と共生することでも恵み(食)を頂き、その食が様々な人とのつながりを作り、豊かな地域と共に生きる企業になりたいという想いなのです。その理念の実現のために3つの事業を行っています。

- ①海の恵み⇨宇和海の水産物を活かした食品加工販売事業
- ②環境共生⇨海の活性化プロジェクト事業(シーカヤックで巡る宇和海の自然と生業を学ぶツアーや環境学習会ほか)
- ③人のつながり⇨交流事業(情報誌やSNSによる情報発信と体験型キャンプ場「GO・HIGH TAKA」の運営)

### こもねっとの軌跡と挫折

2017年1月、貴誌に「海の恵みが人を繋ぐ」という記事を寄稿させていただいた。

弊社の12年間の軌跡において、海の恵みが人を繋いでくれたという私たちの感謝の気持ちを記事にさせていただいた。

「地域が衰退していく中で、地域活性化策として地区外の蔦淵出身者に地域情報を伝える紙新聞から情報とともに、季節の食材をお知らせする機能を追加した情報誌への変遷」「購入いただいたお客様の声をもとに始まった商品開発や販売促進のなかで、ご協力いただいた

加工会社、バイヤー、食品会社、行政、大学など様々な人とのつながり」そして、何より2015年4月に開業した「こもぶちうみのいえこもてらす」によって一番つながりたかった地域の人と繋がるこ

### 商品開発の変遷



とができたことの喜びを記事にしました。「こもてらす」は、太陽光発電システムと搭載した環境共生型自社工場兼地域交流拠点であり、その工場で調理したお弁当を、電気自動車で宅配しながら地域の人を見守る私たちの理念の象徴でした。

しかし、2019年から始まった新型コロナウイルスは、その運営に大きな影響をもたらしました。それは「減少した来客のための食材ロス」、「外食産業向けの販売の縮小」というビジネス上の問題に加え、「小さな村に地域外の方が訪れるということ」、「外出を控える高齢者が一番期待する宅配弁当は、新しい接触の機会となること」という色々な思いの狭間で精神的苦痛でした。



海ごみ清掃

また、地域の様々な行事の中止や廃止は、地域全体の活力を失わせるには十分過ぎました。

そのようなこともあり、2022年4月からこもてらすは休業期間に入っており、調理人等の人材の確保が出来ず再開の目途が立っていません。

### 体験型キャンプ場「GO・HIGH TAKA」の開設

そんな挫折を乗り越え、2023年にオープンしたのが「体験型キャンプ場GO・HIGH TAKA」です。



こもてらす流木ベンチ



カヤック給餌体験

当キャンプ場は、足摺宇和海国定公園内に位置する宇和島蔦淵ハイタカ海岸の海に面した絶景のキャンプ場です。

そのコンセプトは、「海で遊び!海で学ぶ!海で味わう!」

一押しアクティビティは、シーカヤック。宇和海の大自然に加えて、養殖筏での餌やり体験や真珠・岩牡蠣の養殖場の見学をし、海での育みを学びます。また、海岸での清掃作業を通じて、海と経済活動の共生の難しさや環境問題について学びます。

釣り体験や籠上げ体験。そして、釣りあげた魚や採取した貝を使った一夜干し作り体験、鯛めしなどの郷土料理作り体験を学びます。

宇和海を五感で感じ、楽しみながら学

び、その恵みの尊さを感じながら、最高の食材を最高の状態で食す。私たちの新しい「食でつながる人と蔦淵」の実現を目指しています。まだまだスタートしたばかりで足りないことばかりですが、ご利用いただいでくださったお客様の満足そうな表情やリピート利用していただけるお客様が増えていることに大きな喜びと期待を膨らませています。

人口減少と自然環境変化、技術革新など変化の激しい時代を見通すことはできませんが、海と共生しながら、海の恵みを通じて様々な人とつながり、元気な地域を実現するなかで企業として成長していきたいと考えています。



BBQ